

0010052008

※※2019年7月改訂（第9版）
※2018年2月改訂

鎮咳剤

日本薬局方

コデインリン酸塩錠

コデインリン酸塩錠5mg〔シオエ〕

Codeine Phosphate Tab. 5mg SIOE

日本標準商品分類番号

872242

承認番号	21900AMX00516
薬価収載	2007年7月
販売開始	2007年8月

貯法：気密容器、室温保存
使用期限：外箱に記載

※※【禁忌】（次の患者には投与しないこと）

- 1) 重篤な呼吸抑制のある患者〔呼吸抑制を増強する。〕
- 2) 12歳未満の小児〔「(7)小児等への投与」の項参照〕
- 3) 扁桃摘除術後又はアデノイド切除術後の鎮痛目的で使用する18歳未満の患者〔重篤な呼吸抑制のリスクが増加するおそれがある。〕
- 4) 気管支喘息発作中の患者〔気道分泌を妨げる。〕
- 5) 重篤な肝障害のある患者〔昏睡に陥ることがある。〕
- 6) 慢性肺疾患に続発する心不全の患者〔呼吸抑制や循環不全を増強する。〕
- 7) 痙攣状態（てんかん重積症、破傷風、ストリキニーネ中毒）にある患者〔脊髄の刺激効果があらわれる。〕
- 8) 急性アルコール中毒の患者〔呼吸抑制を増強する。〕
- 9) アヘンアルカロイドに対し過敏症の患者
- 10) 出血性大腸炎の患者〔腸管出血性大腸菌（O157等）や赤痢菌等の重篤な細菌性下痢のある患者では、症状の悪化、治療期間の延長をきたすおそれがある。〕

【原則禁忌】（次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること）

細菌性下痢のある患者〔治療期間の延長をきたすおそれがある。〕

【組成・性状】

成分・含量 (1錠中)	日本薬局方コデインリン酸塩水和物 5mg		
添加物	D-マンニトール、トウモロコシデンプン、ヒプロメロース、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸マグネシウム		
性状	白色～帯黄白色の片面割線入り長円形の素錠		
外形	表	裏	側面
大きさ	長径：15mm、短径：6.5mm、厚さ：5.2mm、重量：500mg		
識別コード	S 229		

【効能・効果】

各種呼吸器疾患における鎮咳・鎮静
疼痛時における鎮痛
激しい下痢症状の改善

【用法・用量】

通常、成人には、コデインリン酸塩水和物として1回20mg、1日60mgを経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

(1) 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- 1) 心機能障害のある患者〔循環不全を増強するおそれがある。〕
- 2) 呼吸機能障害のある患者〔呼吸抑制を増強するおそれがある。〕
- 3) 肝・腎機能障害のある患者〔代謝・排泄が遅延し、副作用があらわれるおそれがある。〕
- 4) 脳に器質的障害のある患者〔呼吸抑制や頭蓋内圧の上昇を起こすおそれがある。〕
- 5) ショック状態にある患者〔循環不全や呼吸抑制を増強するおそれがある。〕
- 6) 代謝性アシドーシスのある患者〔呼吸抑制を起こすおそれがある。〕
- 7) 甲状腺機能低下症（粘液水腫等）の患者〔呼吸抑制や昏睡を起こすおそれがある。〕
- 8) 副腎皮質機能低下症（アジソン病等）の患者〔呼吸抑制作用に対し、感受性が高くなっている。〕
- 9) 薬物依存の既往歴のある患者〔依存性を生じやすい。〕
- 10) 高齢者（「(5) 高齢者への投与」の項参照）
- 11) 衰弱者〔呼吸抑制作用に対し、感受性が高くなっている。〕
- 12) 前立腺肥大による排尿障害、尿道狭窄、尿路手術後の患者〔排尿障害を増悪することがある。〕
- 13) 器質的幽門狭窄、麻痺性イレウス又は最近消化管手術を行った患者〔消化管運動を抑制する。〕
- 14) 痙攣の既往歴のある患者〔痙攣を誘発するおそれがある。〕
- 15) 胆のう障害及び胆石のある患者〔胆道痙攣を起こすことがある。〕
- 16) 重篤な炎症性腸疾患のある患者〔連用した場合、巨大結腸症を起こすおそれがある。〕

※※(2) 重要な基本的注意

- 1) 重篤な呼吸抑制のリスクが増加するおそれがあるため、18歳未満の肥満、閉塞性睡眠時無呼吸症候群又は重篤な肺疾患を有する患者には投与しないこと。
- 2) 連用により薬物依存を生じることがあるので、観察を十分に行い、慎重に投与すること。（「(4) 副作用」●重大な副作用-1）の項参照）
- 3) 眠気、眩暈が起こることがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。

(3) 相互作用

本剤は、主として肝代謝酵素UGT2B7、UGT2B4及び一部CYP3A4、CYP2D6で代謝される。

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
中枢神経抑制剤 フェノチアジン系薬剤、 バルビツール酸系薬剤等 吸入麻酔剤 MAO阻害剤 三環系抗うつ剤 β-遮断剤 アルコール	呼吸抑制、低血圧及び顕著な鎮静又は昏睡が起こることがある。	相加的に中枢神経抑制作用が増強される。
クマリン系抗凝血剤 ワルファリン	クマリン系抗凝血剤の作用が増強されることがある。	機序不明
抗コリン作用を有する薬剤	麻痺性イレウスに至る重篤な便秘又は尿貯留が起こるおそれがある。	相加的に抗コリン作用が増強される。
※※ナルメフェン塩酸塩水和物	本剤の効果が減弱するおそれがある。	μオピオイド受容体拮抗作用により、本剤の作用が競合的に阻害される。

(4) 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

●重大な副作用（頻度不明）

- 依存性** 連用により薬物依存を生じることがあるので、観察を十分に行い、慎重に投与すること。また、連用中における投与量の急激な減少ないし投与の中止により、あくび、くしゃみ、流涙、発汗、悪心、嘔吐、下痢、腹痛、散瞳、頭痛、不眠、不安、せん妄、振戦、全身の筋肉・関節痛、呼吸促進等の退薬症候があらわれることがあるので、投与を中止する場合には、1日用量を徐々に減量するなど、患者の状態を観察しながら行うこと。
- 呼吸抑制** 呼吸抑制があらわれることがあるので、息切れ、呼吸緩慢、不規則な呼吸、呼吸異常等があらわれた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。なお、本剤による呼吸抑制には、麻薬拮抗剤（ナロキソン、レバロルファン等）が拮抗する。
- 錯乱** 錯乱があらわれることがあるので、このような場合には、減量又は投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 無気肺、気管支痙攣、喉頭浮腫** 無気肺、気管支痙攣、喉頭浮腫があらわれるとの報告がある。
- 麻痺性イレウス、中毒性巨大結腸** 炎症性腸疾患の患者に投与した場合、麻痺性イレウス、中毒性巨大結腸があらわれるとの報告がある。

●重大な副作用（類薬）

せん妄 類似化合物（モルヒネ）において、せん妄があらわれるとの報告があるので、このような場合には、減量又は投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

●その他の副作用

種類\頻度	頻度不明
循環器	不整脈、血圧変動、顔面潮紅
精神神経系	眠気、眩暈、視調節障害、発汗
消化器	悪心、嘔吐、便秘
過敏症 ^{注)}	発疹、痒痒感
その他	排尿障害

注) このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

(5) 高齢者への投与

低用量から投与を開始するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること [一般に高齢者では生理機能が低下しており、特に呼吸抑制の感受性が高い]。

(6) 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること [動物実験（マウス）で催奇形作用（化骨遅延）が報告されている]。
- 分娩前に投与した場合、出産後新生児に退薬症候（多動、神経過敏、不眠、振戦等）があらわれることがある。
- 外国において、分娩時の投与により、新生児に呼吸抑制があらわれるとの報告がある。
- 授乳中の婦人には、本剤投与中は授乳を避けさせること。 [母乳への移行により、乳児でモルヒネ中毒（傾眠、哺乳困難、呼吸困難等）が生じたとの報告がある。]¹⁾²⁾
なお、CYP2D6の活性が過剰であることが判明している患者（Ultra-rapid Metabolizer）では、母乳中のモルヒネ濃度が高くなるおそれがある。]

(7) 小児等への投与

12歳未満の小児には投与しないこと。 [呼吸抑制の感受性が高い。海外において、12歳未満の小児で死亡を含む重篤な呼吸抑制のリスクが高いとの報告がある。]

(8) 過量投与

徴候・症状: 呼吸抑制、意識不明、痙攣、錯乱、血圧低下、重篤な脱力感、重篤なめまい、嗜眠、心拍数の減少、神経過敏、不安、縮瞳、皮膚冷感等を起こすことがある。

処置: 過量投与時には以下の治療を行うことが望ましい。

- 投与を中止し、気道確保、補助呼吸及び呼吸調節により適切な呼吸管理を行う。
- 麻薬拮抗剤投与を行い、患者に退薬症候又は麻薬拮抗剤の副作用が発現しないよう慎重に投与する。なお、麻薬拮抗剤の作用持続時間はコデインのそれより短いため、患者のモニタリングを行うか又は患者の反応に応じて、初回投与後は注入速度を調節しながら持続静注する。
- 必要に応じて補液、昇圧剤等の投与又は他の補助療法を行う。

(9) 適用上の注意

薬剤交付時: PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。)

(10) その他の注意

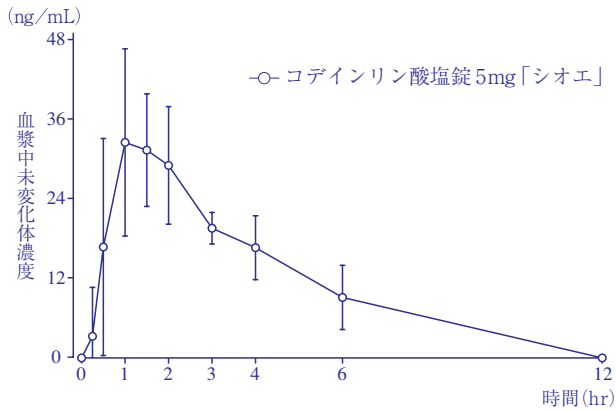
遺伝的にCYP2D6の活性が過剰であることが判明している患者（Ultra-rapid Metabolizer）では、本剤の活性代謝産物であるモルヒネの血中濃度が上昇し、副作用が発現しやすくなるおそれがある。

【薬物動態】

＜生物学的同等性試験＞³⁾

コデインリン酸塩錠5mg「シオエ」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ4錠（コデインリン酸塩水和物20mg）健康成人男子10名に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

但し、血漿中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。



	AUCt (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T1/2 (hr)
コデインリン酸塩錠 5mg「シオエ」	142.1 ±48.0	37.14 ±11.91	1.250 ±0.425	2.506 ±0.472

(Mean ± S.D., n = 10)

※【薬効薬理】⁴⁾

コデインリン酸塩水和物は、モルヒネ系鎮痛薬に属するので、薬理作用は質的にはモルヒネに準ずる。鎮痛、鎮咳作用はモルヒネより弱く、依存性形成も軽度である。鎮咳薬として用いることが多く、麻薬性中枢性鎮咳薬に分類される。オピオイド受容体のうち、主としてμ受容体に作用して、中枢神経及び消化器系に対する作用を現すが、δ及びκ受容体に対する親和性も有する。中枢神経系に対しては、鎮痛、麻酔、多幸感、鎮咳、呼吸抑制などの中枢抑制作用と、嘔吐、縮瞳、痙攣などの中枢興奮作用を示す。鎮咳作用は咳中枢の抑制に由来する。また、末梢作用としては、胃・腸管運動の抑制、胃液、胆汁、膵液分泌の抑制を示し、肛門括約筋の緊張をたかめるので、強い止瀉作用を示す。

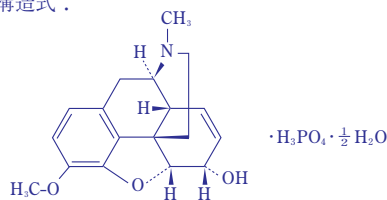
【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：コデインリン酸塩水和物（Codeine Phosphate Hydrate）

化学名：(5R, 6S)-4, 5-Epoxy-3-methoxy-17-methyl-7, 8-

didehydromorphinan-6-ol monophosphate hemihydrate

化学構造式：



分子式：C₁₈H₂₁NO₃·H₃PO₄·½H₂O

分子量：406.37

性状：本品は白色～帯黄白色の結晶又は結晶性の粉末である。

本品は水又は酢酸(100)に溶けやすく、メタノール又はエタノール(95)に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品1.0gを水10mLに溶かした液のpHは3.0～5.0である。

本品は光によって変化する。

【取扱い上の注意】

＜安定性試験＞⁵⁾

PTP100錠ピロー包装を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヵ月)の結果、コデインリン酸塩錠5mg「シオエ」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

【包装】

PTP 100錠、500錠

【主要文献】

- 1) Koren, et al. : Lancet, 368, 704(2006)
- 2) Madadi P., et. al. : Clinical Pharmacology & Therapeutics, 85(1), 31-35. (2009)
- 3) シオエ製薬(株)社内資料 コデインリン酸塩錠5mg「シオエ」の生物学的同等性試験
- 4) 第十七改正日本薬局方解説書（廣川書店）
- 5) シオエ製薬(株)社内資料 コデインリン酸塩錠5mg「シオエ」の安定性試験

【文献請求先】


主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。


シオエ製薬株式会社 製品情報担当

〒661-0976 兵庫県尼崎市潮江3丁目1番11号

TEL 06(6470)2102

FAX 06(6499)8132

製造販売元  **シオエ製薬株式会社**
兵庫県尼崎市潮江3丁目1番11号

販 売  **日本新薬株式会社**
京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14